

A区分・C区分共通  
No.1(実演芸術・メディア芸術)

令和6年度舞台芸術等総合支援事業(学校巡回公演)出演希望調書(実演芸術・メディア芸術 共通)

分野、種目(該当する分野、種目を選択してください。)

分野	伝統芸能	種目	邦楽
----	------	----	----

申請区分(申請する区分を選択してください。)

申請区分	A区分
------	-----

複数申請の状況(該当するものを選択してください。) ※B区分継続団体については、申請企画数から除く

複数申請の有無	無	申請総企画数	
---------	---	--------	--

複数の企画が採択された場合の実施体制(該当するものを選択してください。)

※複数申請の有無で【無】を選択された場合は、未記入で構いません。(グレーアウトされます。)

複数の企画が採択された場合の実施体制	
--------------------	--

芸術文化団体の概要

ふりがな 制作団体名	とくていひえいりかつどうほうじん にほんおんがくしゅうだん 特定非営利活動法人 日本音楽集団	団体ウェブサイトURL <a href="http://www.promusica.or.jp/">http://www.promusica.or.jp/</a>
代表者職・氏名	代表・尾崎 太一	
制作団体所在地	〒 151-0073 東京都渋谷区笹塚3-17-1 滝沢ビルB1	最寄り駅(バス停) 京王線「笹塚駅」
電話番号	03-3378-4741	
ふりがな 公演団体名	とくていひえいりかつどうほうじん にほんおんがくしゅうだん 特定非営利活動法人 日本音楽集団	団体ウェブサイトURL <a href="http://www.promusica.or.jp/">http://www.promusica.or.jp/</a>
代表者職・氏名	代表・尾崎 太一	
公演団体所在地	〒 151-0073 東京都渋谷区笹塚3-17-1 滝沢ビルB1	最寄り駅(バス停) 京王線「笹塚駅」
制作団体 設立年月	1964年 4月	
制作団体組織	役職員 代表:尾崎太一、副代表:米澤浩 運営委員長:元永拓、運営委員:田野村聡・原郷隆、久保田晶子、他3名 事務局:中山美穂子	団体構成員及び加入条件等 正会員:64名、協力会員:46名、賛助会員:法人1、個人22人(以上、計132名、1法人) 加入条件/本団の趣旨に賛同し、プロとしての音楽活動を行う事や協力・支援する事。
事務体制 事務(制作)専任担当の有無	事務(制作)専任の担当者を置く	本事業担当者名 米澤 浩 (副代表)
経理処理等の 監査担当の有無	有	経理担当者名 中山 美穂子
本申請にかかる連絡先 (メールアドレス)	米澤 浩/yonesan.108@nifty.com	

<p>制作団体沿革</p>	<p>1964年に演奏家と作曲家の14名で設立され、同年11月に第1回定期演奏会を開催しました。</p> <p>1999年特定非営利活動法人に認定され、年3回の定期演奏会の他、全国各地の鑑賞団体や文化施設主催のコンサート、小・中・高等学校での鑑賞会、CD、放送、映画、そして『スーパー歌舞伎』などの演劇の音楽も担当するなど活動を行っています。</p> <p>1981年には、ライブチヒ・ゲヴァントハウス・オーケストラ命名200年記念委嘱作品『急の曲』（三木稔作曲）を同オーケストラの音楽監督クルト・マズア氏指揮により初演。海外の音楽祭にも多数参加し、2001年邦楽アンサンブルとして初めて『ブラハの春』に招聘（第25次海外公演）されました。</p> <p>2010年には第30次海外公演としてユーラシア音楽祭を含むロシア、モンゴル公演を実施しました。</p> <p>定期演奏会は、2023年9月までに240回を数えます。</p>			
<p>学校等における公演実績</p>	<p>私共法人は、昭和39年（1964年）に任意団体として設立し、平成10年（1998年）までに723公演以上の学校鑑賞会の実績を持ちます。（但し、創立から昭和57年までの実績データは不明です。）</p> <p>平成11年（1999年）にNPO法人となって以降は400公演以上の実績を持っています。</p> <p>その中特筆させて頂きたいのは、認定NPO法人トリトン・アーツ・ネットワークと共同して実施している『Meet_The_和楽器』プロジェクトを実施する過程で『箏体験プログラム《さくらリレー》（YK版）』を確立させ、実施して来たことです。</p> <p>それまでの学校鑑賞会プログラムとは異なる「箏体験プログラム（45分）」と「鑑賞プログラム（45分）」で構成した『Meet_The_和楽器』を、令和4年度までに東京都中央区・江東区内の延べ40校で小学校4年生3864名を対象に実施しました。</p> <p>本学校巡回公演事業でも『箏体験プログラム《さくらリレー》（YK版）』を含めた『巡回公演プログラム』を実施いたします。</p>			
<p>特別支援学校等における公演実績</p>	<p>※文化庁巡回公演事業における実績</p> <p>平成26年度／愛知県立豊橋特別支援学校</p> <p>平成27年度／滋賀県立三雲養護学校 大阪市立平野特別支援学校</p> <p>平成28年度／福岡県立福岡聴覚特別支援学校 長崎県立盲学校</p> <p>平成30年度／青森県立八戸聾学校・盲学校（合同開催）</p> <p>※アーツカウンシル東京の事業における実績</p> <p>令和4年度／東京都立新宿養護学校 東京都立田園調布特別支援学校</p> <p>令和5年度／東京学芸大学付属特別支援学校</p>			
<p>参考資料の有無</p>	<p>申請する演目のWEB公開資料</p>	<p>無</p>		
	<p>※公開資料有の場合URL</p>			
	<p>※閲覧に権限が必要な場合のIDおよびパスワード</p>	<p>ID:</p>		
		<p>PW:</p>		

公演・ワークショップの内容

【公演団体名 特定非営利活動法人 日本音楽集団】

対象	小学生(低学年)	○	/
	小学生(中学年)	○	
	小学生(高学年)	○	
	中学生	○	
企画名	『ごんぎつね』～語りと合唱と邦楽器で作る音楽朗読劇～		
本公演演目 原作/作曲 脚本 演出/振付	<p>(1) 【小学校】『宮崎駿アニメ・メドレー』（秋岸寛久編曲）</p> <p>(1) 【中学校】『さくら～手と手でつなごう！』（高橋久美子編曲） ／◆<b>中学生 生徒代表が《箏で共演》</b></p> <p>(2)～(6)『日本の楽器たち』（古典作品） ／六段の調、鹿の遠音、春の海、那須の与一、幕間三重・獅子狂い五段</p> <p>(7)『子どものための組曲』（篠田大介作曲） ～休憩（10分）～</p> <p>(8)『ごんぎつね』～語りと合唱と邦楽器で作る音楽朗読劇～/ （作：新美南吉、音楽：川崎絵都夫、作詞：佐藤万里）</p> <p>【小学校】◆<b>児童生徒代表が《歌で共演》</b> 【中学校】鑑賞のみ</p> <p style="text-align: right;">公演時間 100 分</p>		
著作権、上演権利等の 許諾状況	各種上演権、使用権等の許諾手続きの要否	該当あり	該当コンテンツ名 『ごんぎつね』
	該当事項がある場合	権利者名 川崎 絵都夫 氏	許諾確認状況 使用(上演)許諾取付済
演目概要	<p>第1部は色々な日本の楽器について司会者（協力俳優）の進行と演奏者の話しにより各楽器の古典作品と現代の合奏曲の紹介、第2部は『ごんぎつね』～語りと合唱と邦楽器で作る音楽朗読劇～で構成しています。</p> <p>●【小学校】では、国語の授業で「ごんぎつね」を学習した中・高学年の児童生徒の中から学校側で代表の学年を選出して頂き、『ごんぎつね』～語りと合唱と邦楽器で作る音楽朗読劇～で、<b>日本音楽集団の7名の演奏者（7種類の日本の楽器）と歌で共演</b>して頂きます。</p> <p>●【中学校】では、代表の生徒さんにワークショップで体験した箏（こと）を演奏して頂き、『さくら～手と手でつなごう！』で、<b>日本音楽集団の7名の演奏者（7種類の日本の楽器）と箏の演奏で共演</b>して頂きます。</p>		
演目選択理由	<p>小学4年生で学習する新美南吉の「ごんぎつね」をメイン・プログラムにおいた公演を鑑賞することで、日本の楽器をより身近に感じてもらうよう意図し、併せて、生徒代表と演奏者が一緒に作り上げる《共演体験》を持つこと、本公演での発表を通じて全校児童生徒の皆さんに《間接的体験》を共有してもらうことも意図しています。尚、児童生徒代表の皆さんとの共演形態は学校側のご要望に可能な限り沿うよう、基本パターンを巡回公演の実施が決まった各校に日本音楽集団から配布する【実施の手引き】で紹介します。</p> <p>又、第1部の『日本の楽器たち』では、それぞれの古典作品を紹介することはもちろんのこと、それぞれの演奏家が現在に至る「演奏家としての個人史」にも触れて《キャリア教育的要素》を盛り込むことも意図しています。</p>		
児童・生徒の共演、参加又は体験の形態	<p>●【小学校】『ごんぎつね』を国語の時間に学習した4年生以上の児童生徒が代表となり、《ごんの歌》で<b>日本音楽集団と共演</b>し、児童生徒代表の皆さんと日本音楽集団の演奏者が「音楽朗読劇を作り上げる過程」を共有し、「協働の場」を児童生徒代表と演奏者として持つことを意図しています。</p> <p>本公演において、児童生徒代表と演奏者が協働した成果を全校児童生徒に発表し、共に作り上げた「音楽朗読劇」の鑑賞を通じて全校児童生徒の皆さんに《間接的体験》を共有してもらうことも意図しています。尚、児童生徒代表の皆さんとの共演形態は学校側のご要望に可能な限り沿うよう、基本パターンを巡回公演の実施が決まった各校に日本音楽集団から配布する【実施の手引き】で紹介します。</p> <p>●【中学校】ワークショップで体験した箏を『さくら～手と手でつなごう！』で<b>代表生徒に演奏して頂き、7名の日本音楽集団の演奏者と共演</b>して頂きます。尚、本公演日に持ち込める箏の面数とプログラム全体の時間枠から、<b>本公演で共演する代表生徒は2年生以上の10名まで</b>との共演1回とさせていただきます。（生徒さんを入れ替えて複数回演奏することには対応できません。）</p>		
出演者	<p>●7種の和楽器の7名の演奏家（日本音楽集団団員）</p> <p>○ 笛／新保有生・あかる潤・芝有維、 ○ 尺八／元永拓・原郷隆・田野村聡・川俣夜山、</p> <p>○ 三味線／杵家七三・山崎千鶴子・養田弘大・長井麻江、 ○ 琵琶／久保田晶子・藤高理恵子、</p> <p>○ 箏（こと）・二十絃箏／熊沢栄利子・桜井智永・三宅礼子、</p> <p>○ 十七絃箏／城ヶ崎美保・丸岡映美・久本桂子・石井香奈、</p> <p>○ 打楽器／臼杵美智代・多田恵子・盧慶順・山内利一、 他</p> <p>●協力俳優（助演）</p> <p>○ 司会と朗読／飛山真利子・竹井沙紀・吉瀬はなこ 以上、<b>7名の演奏家と司会者1名、計8名を派遣</b></p>		
本公演 従事予定者数 (1公演あたり) ※ドライバー等 訪問する業者人数含 む	出演者： 8 名 スタッフ： 1 名 合 計： 9 名	運搬	トヨタ ハイエース 積載量： 1.25 t 車 長： 4.84 m 台 数： 1 台

本公演 会場設営の所要時間 (タイムスケジュール) の目安	前日仕込み	無	前日仕込み所要時間		時間程度	
	到着	仕込み	上演	内休憩	撤去	退出
	9時30分	9時30分～12時15分 (共演のリハーサル含む)	13時30分 ～15時10分	10分	15時20分 ～15時50分	16時

※本公演時間の目安は、午後、概ね2時間分程度です。

本公演 実施可能日数目安  ※実施可能時期については、採択決定後に確認します。(大幅な変更は認められません)	6月	7月	8月	9月	10月	
					4日	
	11月	12月	1月	計	34日	
	20日	10日				

※平日の実施可能日数目安をご記載ください。

児童・生徒の 参加可能人数	本公演	共演人数目安	<b>【小学校】</b> 歌で共演:最大160名 <b>【中学校】</b> 箏の演奏で共演:最大10名
		鑑賞人数目安	50名～300名



【ワークショップ】～会場の設営～

写真のように体験用の箏を20面配置するスペースに加え、共演の練習のための演奏者用の楽器を配置するスペースも必要であるため、ワークショップ会場は体育館とさせていただきます。



【ワークショップ】～モニターを使って説明～

どうやったら良い音でお箏を弾けるのか?モニターを使いながら分かりやすく説明しながらワークショップの楽器体験を進めていきます。

モニターカメラや三脚に加え、ポータブルスピーカーやマイクスタンド等は日本音楽集団で持ち込みますが、モニター用に学校備品のテレビ・電子黒板、及び、電源ドラムコードなどをお借りします。



【本公演】～会場の設営～

体育館フロアでの公演を基本としています。体育館は横長に使用し、演奏者がどのように楽器を演奏しているか?等の演奏者の手の動きなどを、少しでも「間近に見てもらおう」ことを目指しています。低学年のお友達は、前列に並び中央部に座るか等を各実施校毎にご相談しながら着席して頂きます。



【本公演】～演奏に必要な広さ～

演奏に必要なスペースは、「間口8m」・「奥行き3m」が最低限必要なスペースです。

『演奏者エリア』から約3m程度離れたところから児童生徒さんが着席する『鑑賞エリア』を設定して下さい。

●【中学校】では、写真の演奏スペースの前のエリアのフロアに「共演用の箏10面」を設置しますので、『鑑賞エリア』はこれに伴い後ろに下がることとなります。

公演に係るビジュアルイメージ  
(舞台の規模や演出がわかる写真)

※採択決定後、図面等の提出をお願いします。

児童・生徒の参加可能人数	ワークショップ	参加人数目安	最大160名 / 【楽器体験】授業時間1コマ単位でクラス毎に実施、最大4クラス(4コマ)まで可能。
ワークショップ実施形態及び内容	<p>ワークショップは、【小学校】には演奏家5名と協力俳優1名の計6名、【中学校】には演奏家5名を派遣して実施します。</p> <p>● <b>ワークショップの会場 / 【小・中学校共通】</b> 体験用の箏（こと）20面と練習で共演する演奏者用楽器を配置するスペースを確保するため、<b>体育館をワークショップ会場</b>とさせていただきます。</p> <p>● <b>【小学校】ワークショップ実施のタイムテーブル例 /</b> 1校時目一箏（こと）類の搬入と準備、2校時目一箏体験（代表1クラス目） 3校時目一箏体験（代表2クラス目）、4校時目一箏体験（代表3クラス目） 5校時目一箏体験（代表4クラス目）、6校時目一共演練習（体験クラス合同で実施）</p> <p>● <b>【中学校】ワークショップ実施のタイムテーブル /</b> 体育館を使用できる時間枠にも関係するため、個別に相談いたします。 ※注記：前泊地から実施校が離れている場合は、1校時目から準備を開始することが難しい場合があります。その場合は2校時目に箏類の搬入・準備をし、3校時目以降に箏体験を行うため代表のクラス数は減少します。</p> <p>● <b>箏体験【小・中学校共通】 / 『箏体験プログラム《さくらリレー》（YK版）』</b> 私共法人が箏（こと）20面を実施校に持ち込み『箏体験』を行います。 学校に持ち込むのは箏だけでなく、弾き方を紹介するためのモニター用ビデオカメラ類も持ち込み、学校備品の電子黒板・テレビモニター等をお借りして代表児童生徒の皆さんに分かりやすく解説して進行します。 尚、<b>小・中学校共に『箏体験の実施はクラス単位』で実施</b>いたします。 （◆ No.2の「公演に係るビジュアルイメージ」をご参照下さい。）</p> <p>● <b>【小学校】</b>では、児童生徒の代表クラスを選んで頂き（4年生以上で最大4クラスまで）、クラス単位で実施して所要時間は1クラス（1コマ）45分です。</p> <p>● <b>【中学校】</b>では、学年に合わせた内容で体験プログラムを進め、2年生以上のクラスでは日本音楽集団の演奏家との合奏を目指します。</p> <p>● <b>共演の練習 /</b> ● <b>【小学校】</b>代表の児童生徒のクラス合同で『ごんぎつね～語りと合唱と邦楽器で作る音楽朗読劇～』に登場する3曲の『<b>ごんの歌</b>』で<b>共演するための練習</b>を最後の授業時間に行います。本公演で『ごんぎつね』の朗読を担当する協力俳優の指導により、5人の演奏家（尺八・三味線・二十絃箏・十七絃・打楽器の奏者）が伴奏して共演の練習を進行します。（45分）</p> <p>● <b>【中学校】</b>本公演では『<b>成果発表</b>』として<b>代表生徒の皆さん（2年生以上10名以内）と日本音楽集団の演奏家が共演</b>をします。2年生以上のクラスを対象に実施する楽器体験では、実施時間枠内（50分）にクラス全員の生徒さんにこの『<b>共演体験</b>』をして頂きます。</p>		
ワークショップのねらい	<p>● <b>【小学校】</b>で実施する『箏体験プログラム《さくらリレー》（YK版）』は、単に「箏（こと）に触れてみる」プログラムではなく、クラス全体で協力して「さくら」を最後まで演奏する『<b>協力要素</b>』を盛り込み、《<b>クラス全体で達成感を共有</b>》してもらおう『<b>参加型体験学習</b>』として実施しています。まず、クラスの児童生徒の皆さんに「2人1組のペア」になってもらいます。最大で20ペアができることとなりますが、このペア同士の協力が基本となります。そして、2人1組のペアが2つのグループに分かれ（最大各10ペアずつ2グループ）、2つのグループで音楽をリレーしながら「さくら」を最後まで演奏することを目指してもらいます。ペア同士の協力はもちろん、クラス全体（2つのグループ）の協力・協働が必要な『箏体験プログラム』です。 又、『ごんぎつねでの共演リハーサル』では、「作品を演奏家と一緒に作り上げる経験」を持つことで、「演奏家と協働体験も共有する」ことを意図しています。</p> <p>● <b>【中学校】</b>で実施する『箏体験プログラム《さくらリレー》（YK版）』は、まず「箏（こと）に触れてみる」ことから始め、学年ごとに体験の進み具合に合せ、2年生以上の学年では日本音楽集団の演奏家と箏で共演することも視野に入れていきます。</p>		
その他ワークショップに関する特記事項等	<p>日本音楽集団で実施している『箏体験プログラム《さくらリレー》（YK版）』は、試行を経て平成24（2012）年に東京都中央区の小学4年生を対象に本格的にプログラムの実施を始め、令和5年度までに、文化庁巡回公演事業でのワークショップも含め全国の小学校延べ151校で約1.2、200名の児童生徒を対象に実施した実績を持ち、実施現場からのフィードバックを基にしたブラッシュアップも行いながら現在に至っています。 令和5年度に中学校での事業実施を開始し、令和6年度より本格的に中学校でのワークショップ実施と本公演での共演を軸として本事業を実施いたします。 「体験レッスン」になりがちな楽器体験ではなく、ファシリテーターが体験をサポートしながら『子ども達それぞれが自分で感じながら《箏》という楽器を体験していく』ことに重きを置いたプログラムとして実施しています。</p>		

本事業への申請理由

【公演団体名 特定非営利活動法人 日本音楽集団】

<p>本事業に対する 取り組み姿勢、および 効果的かつ円滑に実施 するための工夫</p>	<p><b>① 本事業に対する取り組み姿勢</b> 『ごんぎつね』は1998年第150回定期演奏会で初演されましたが、その後7種類の日本の楽器編成に改定され、さらに教科書に掲載されている原文のままでも上演できるように再構成されました。 改訂・再構成された『ごんぎつね～語りと合唱と邦楽器で作る音楽朗読劇～』は、2013年第210回定期演奏会《子どもたちへのメッセージ》においてNHK東京児童合唱団との共演で再演されました。</p> <p>「邦楽の普及」を設立主旨の柱の一つとする本法人にとって、次世代へメッセージを送り続けることは非常に重要であり、『ごんぎつね～語りと合唱と邦楽器で作る音楽朗読劇～』はそれを実践する主軸作品の一つです。 小学校での本事業実施では、『ごんぎつね』の中の劇中歌『ごんの歌』を実施校の児童生徒の皆さんが歌い、日本音楽集団の演奏者との《協働体験》を持つことと併せ、共演する楽器の一つである「箏（こと）」に実際に触れるワークショップを経た《体験と共演の両面》から邦楽器への理解を促し関心を高めることを意図しています。</p> <p>上述の第210回定期演奏会や、平成26年度～令和5年度の巡回公演事業に助演をして頂いた協力俳優からの快諾が得られている他、『箏体験プログラム《さくらりレー》』に使用する楽器は東京の和楽器店から全面的な協力が約束されており、各方面から令和6年度に向けて全面的な協力の約束が得られています。 又希望校においては、体験や合唱練習の場を離れたところでも児童生徒と日本音楽集団の演奏者とのコミュニケーションの場を持てるよう、「給食交流」を推奨・実施しています。</p> <p><b>② 事業を効果的かつ円滑に実施するための工夫</b> <b>②-1) プロデューサー・ディレクターチーム／</b> 事業実施に向けては、本法人内に「プロデューサー・ディレクターチーム」を組織して準備を進め、いずれの公演においてもワークショップと本公演が円滑に実施できるように準備を進めています。</p> <p><b>②-2) チェックシート／</b> 本事業実施のための準備資料『チェックシート』（エクセルファイル）を、本法人のプロデューサーが開催校のご担当の先生のご協力を仰ぎつつ作り上げ、ワークショップ・本公演に向けて開催校と本法人との間での『情報共有』を図ります。 『チェックシート』は実際に開催校に赴く演奏者・スタッフにとっても、非常に重要な情報ファイルであり、ワークショップ・本公演の事業全体を円滑に実施するために不可欠な資料です。 尚、『チェックシート』をご担当の先生と作り上げて行くためには、メールにエクセルファイルを添付してのやり取りが不可欠なため、《インターネットでのやり取りが円滑に出来ることが必須条件》です。</p> <p><b>②-3) 実施校に提供する資料／</b> 公演実施校においてワークショップと本公演に向けて準備を進めて頂くために下記の資料を準備しており、巡回公演の実施が決定した各校には速やかにこれらの資料を提供します。</p> <p><b>3-1) 教職員用資料</b> ・日本音楽集団『実施の手引き』／事業実施に向けて日本音楽集団が作成した《準備から事業実施までをまとめた小冊子資料》【小・中学校共通】 ・『ごんぎつね』台本【小学校】 ・『ごんの歌』練習用CDR - 協力俳優が歌う『ごんの歌』3曲の《サンプル》と、日本音楽集団演奏の《練習用カラオケ》【小学校】 ・箏体験プログラム『さくらりレー』紹介DVD - 先生方に内容を知って頂くための《教職員専用の事前資料》【小・中学校共通】</p> <p><b>3-2) 児童生徒への配布資料（コピー原本を提供）</b> ・『ごんの歌』楽譜 - 共演する児童生徒代表の皆さんに配布【小学校】 ・『さくらりレー』楽譜 - 楽器体験をする児童生徒代表の皆さんに配布【小・中学校共通】</p>
--	--